



海上保安庁創設70周年

幹 事 連 絡

平成30年1月12日

午前10時00分

清水海上保安部

(問合せ先)

交通課長 大川 仁史

電 話 : 0 5 4 - 3 5 5 - 0 2 2 5

F A X : 0 5 4 - 3 5 5 - 0 2 2 6

広 報

**平成29年清水海上保安部管内における海難の現況
《速報値》**

清水海上保安部管内(御前崎海上保安署含む)海域における平成29年の船舶事故、人身事故(プレジャーボート等乗船中の事故及びマリナーレジャー活動に伴う海浜事故等)の発生状況は、船舶事故隻数31隻、船舶事故に伴う死者行方不明者は2人で、人身事故者数は52人、うち死者行方不明者は22人でした。

船舶事故隻数は、昨年に比べ7隻減少し、船舶事故に伴う死者行方不明者は昨年と同数でしたが、人身事故者数は昨年に比べ7人増加し、この内の死者行方不明者が4人減少となりました。

船舶事故の主な内訳は、プレジャーボートが18隻(58%)、貨物船が3隻(10%)、漁船が3隻(10%)、旅客船2隻(6%)でした。

人身事故者52人の内、マリナーレジャーに伴う海浜事故は13人(前年19人)で、この内の死者行方不明者は4人(前年7人)でした。

湖西市から沼津市に至る駿河湾・遠州灘の海域

【平成29年の傾向】

船舶事故

過去5年間（平成24年～28年）の船舶事故では、プレジャーボートが59%（100隻）を占めており、平成29年においても同様に58%（18隻）となっています。

また、旅客船の事故は、平成20年以降、発生していませんでしたが、平成29年は2隻（6%）発生しました。

死者行方不明者を伴う船舶事故も、過去5年間では平成28年に発生した2隻（2人）のみでしたが、平成29年も1隻（2人）発生しました。

人身事故

マリンレジャーに伴う海浜事故13人のうち、7人（54%）が県外者でした。

発生種別の主な内訳は、釣り中とスキューバダイビング中の各3人が最も多く、次いで海水浴中とウインドサーフィン中が各2人となっています。

また、死亡者4人の内訳は、遊泳中が2人、釣り中とウインドサーフィン中が各1人であり、4人のうち3人が県外者です。

引き続き、関係機関等と海難防止策の検討を行うとともに、連携した海難防止活動を行っていきます。

資料

1 船舶事故

平成29年の事故隻数は31隻、船舶事故に伴う死者行方不明者2人

	25年	26年	27年	28年	29年
事故隻数	39	38	31	38	31
死者・行方不明者数	0	0	0	2	2

2 人身事故

平成29年の事故者数52人、うち死者・行方不明者22人

	25年	26年	27年	28年	29年
事故者数	43	65	55	45	52
死者・行方不明者数(再掲)	16	28	18	26	22